

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター

TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(21年3月分)

1. 調査実施期間 平成21年 2月20日 ～3月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

3月分の回答企業数は39社、回収率は81.3%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

$$\text{Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス)} = \{(\text{「増加」の評価を行った回答の割合}) \times 2 + (\text{「やや増加」の評価を行った回答の割合}) - (\text{「減少」の評価を行った回答の割合}) \times 2 - (\text{「やや減少」の評価を行った回答の割合})\} \div 2$$

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		21/3月	4月	5月
仕入動向	国産材	△ 41.9	△ 24.2	△ 13.3
	外材	△ 35.1	△ 25.7	△ 8.3
販売動向	国産材	△ 50.0	△ 28.3	△ 19.0
	外材	△ 39.2	△ 23.0	△ 13.9
在庫動向	国産材	△ 27.6	△ 19.0	△ 17.9
	外材	△ 29.2	△ 23.6	△ 12.9

仕入は、国産材、外材とも大きなマイナス幅を縮め春需等期待伺えるが、先行き不透明で悪い。

販売も国産材、外材とも大きなマイナス幅を若干縮めたが、先安感払拭できず全く動き悪い。

在庫も同様、国産・外材とも大きなマイナス幅で適正化遠い。

仕入、販売、在庫とも3ヶ月の動向が1～2月に引き続いて全て大きなマイナスと特段の弱さ長期化の様相。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	21/3月	4月	5月
スギ正角(グリーン)	△ 13.6	△ 13.6	△ 11.9
スギ正角(KD)	△ 13.0	△ 13.0	△ 11.4
ヒノキ正角	△ 9.1	△ 9.1	△ 7.1
ヒノキ土台角	△ 6.8	△ 9.1	△ 7.1
米ツガ正角(現地挽)	△ 28.6	△ 9.5	△ 4.8
米ツガ防腐土台角	△ 16.7	△ 4.8	△ 2.5
米ツガ割物(現地挽)	△ 23.8	△ 7.5	△ 2.5
米マツ平角	△ 33.3	△ 9.5	△ 2.5
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 38.1	△ 9.5	△ 5.0
ホワイトウッド集成管柱	△ 47.7	△ 13.6	△ 7.1
レッドウッド集成平角	△ 39.5	△ 15.8	△ 2.8
型枠合板(国産)	△ 20.0	△ 6.7	△ 3.3
型枠合板(輸入)	△ 10.5	△ 7.9	2.8
針葉樹合板	△ 16.7	△ 5.6	2.9

スギ正角(グリーン、KD)、およびヒノキ正角、土台角ともやや大きなマイナスではほぼ横ばいと低調長引く。米ツガ正角、防腐土台角、割物、米マツ平角はいずれも大きなマイナスから一気に回復だが、プラスまでの勢いはなく弱含み。

北洋アカマツタルキは大きなマイナス幅縮めるが回復までに到らず。WW集成管柱、RW集成平角とも一段の大きなマイナス幅から大幅に回復と期待大きいが依然不透明感あり不調。

合板は全品目の中で唯一小さなプラス幅等と、春先には着実な回復の様子見込まれる。

1. 荷動き		コメント
仕入動向	米マツ一般材丸太では、米国材輸出価が2月積みは値下げ。3月積みは交渉中だが値下げの公算が強い。カナダ材も相変わらず出材減で保合い。スプルーサー丸太はカナダ材輸出用が多少出て来ているものの、価格は強く、一向に下がる気配がない。(東京:米材問屋)	
	為替がやや円安に向いており、売れないのに原価が上昇し、益々やりにくい。(東京:米材問屋) 先物契約は全面ストップしている。(東京:米材問屋) 当用買いで対応。(東京:米材問屋) 買いたくとも売れ行き不振で仕入れようが無い。(東京:米材問屋) 日本からの受注は少ないが中国、韓国からの受注が入っており、少ない原木から産地価格は依然として居所が高い。(東京:南洋・中国材問屋) 各問屋は在庫を減らしており、入荷は少ない。(東京:南洋・中国材問屋) 売れず、仕入れ出来ない。(東京:国産材問屋) 良材原木減少のため、良いものは買おうと思うが現在の市況ではためらってしまう。(東京:国産材問屋)	
販売動向	京浜マーケットでは米マツ一般材丸太の荷動きが好転せず、問屋も荷動き優先で値下げもやむなしとの空気が強い。(東京:米材問屋)	
	在庫調整と3月決算が済めば多少良くなると思う。(東京:米材問屋) 売れない。新築住宅は全く無い。(東京:米材問屋) 徹底した当用買い変わらず。(東京:米材問屋) 例年だと3月後半から材は動くが今年は？(東京:米材問屋) 円安気味のため、船毎の原価が変動して複雑。(東京:南洋材問屋) 細かい注文は多いがまとまった注文は少ない。(東京:南洋材問屋) 最低限の売上は確保。(東京:南洋材問屋) 細かい注文材は多いがB/L(船荷証券)の荷動きは悪い。(東京:南洋・中国材問屋) 今まで40年間で初めて経験する悪さ。これから1年間ガマンのしどころ。(東京:問屋) 3月に入って特に売れない。(東京:国産材問屋) 需要不振極まり。(東京:国産材問屋) 荷動き停滞、特に構造材不振。(東京:国産材問屋) 見積りも合見積りが多く、価格競争激しい。(東京:国産材問屋) 全く売れない。工務店は先行き不安から廃業続出。この状況がいつまで続くか見通せない。(東京:仲買小売) 前月以上に荷動き悪化。場所柄、建替はほとんど中層ワンルームマンション。建築現場はあっても商売と何ら結びつかず。(東京:仲買小売) 今月は全体的に仕事量があり材料も動いたが、先の見積りが決まっていけないのが不安材料。(東京:仲買小売) 相変わらずの荷動き低迷。想定外の状態。(東海:仲買小売)	
在庫動向	米マツ丸太はメーカー在庫が一向に減少せず、問屋の手持ち在庫もセミカスケード(コーストとカスケードの中間的な材質のもの)を中心に増えている。(東京:米材問屋) 売れるものと売れないものがはっきり分かれ、上級品の在庫が増えている。(東京:米材問屋) メーカーとのお付き合いで買うが、売れないので益々在庫が増えている。(東京:米材問屋) 注文材用の特殊な寸法材の在庫がほとんど無い。産地の在庫も中国、韓国に買われてしまっている。(東京:南洋・中国材問屋) 在庫増やす気分ではなく当用買い。(東京:国産材問屋) とにかく減らすこと。(東京:米材問屋) 入荷を減らしているものの、出荷が少なく在庫は増えている。(東京:南洋・中国材問屋) これ以上在庫を減らすと、材木屋ではなくブローカーと違わなくなってしまう。(東京:仲買小売) 在庫も底をついたが、現状では増やす気はない。(東京:仲買小売)	
2. 価格動向		
スギ正角	売れないため弱含み。(東京:問屋) スギ・ヒノキ共に弱い。(東海:国産材問屋) 建築着工の落込みが続いている限り、国産構造材は弱気ながら当面動かない。(東京:仲買小売)	
ヒノキ正角	土台KD材の動き良い。(東京:問屋)	
土台角		
米ツガ	今月が最安値になると思う。(東京:問屋) 輸入構造材は共に弱気調が続く。(東京:仲買小売)	
米マツ平角	下げても売れないのにメーカーは価格を下げている。(東京:問屋)	
北洋アカマツタルキ	B級品価格はやや弱気だが、A級品価格は割合しっかりしている。(東京:仲買小売)	
WW・RW集成材	まだまだ輸入増で在庫調整が進んでいない。(東京:問屋) 相場がないに等しい。値崩れがひどい。(東京:問屋)	
合板	底値が確認できたのは良いが、原価と相場の差が大きいところがメーカーの辛さか。(東京:仲買小売) 何といっても需要頼み。底値圏で低迷、相変わらず仕入れ意欲無し。(東京:仲買小売) 安い所で積極的な仕入れが必要か？動きは全く無い。(東海:仲買小売)	